琴の海

https://hngc-dosokai.jimdo.com/

第 ２ １ 号
発 行 放送大学長崎同窓会
編 集 会報編集委員会
発行責任者 高 潮 昇
2021 年5月15日発行

目　　次

■ 同窓会会長あいさつ ・・・・ 2
■ 長崎学習センター所長あいさつ ・・・・ 3
■ 活　動　紹　介 ・・・・ 4～9
・リモートでの講演会・論文発表会の開催
・アンケート集計結果の分析
・講演会「コロナの時代 私たちは何を考えるか」
・卒業論文「電弱相互作用と中性カレントの研究」
・卒業研究「産学連携の促進要因に関する一考察」
■ 二次離島の高齢者に寄り添って ・・・・ 9
■ 総　会　資　料 ・・・・ １０～１１
■ 新 会 員 の 紹 介 ・・・・ １２
■ お　た　よ　り ・・・・ １２～１４
■ 健康学習サークルのご案内 ・・・・ １５
■ 公開講座特別企画「解説付れきぶんツアー」 ・・・・ １６
■ 編　集　後　記 ・・・・ １６

同窓会会長 あいさつ

ウイズコロナを見据えた同窓会活動

放送大学長崎同窓会　　会長　髙潮　昇

同窓会会員の皆様におかれましては、益々のご健勝でご活躍の事と拝察いたします。

長崎同窓会は、2001 年 4 月に会員 14 名で設立。今年（2021 年）4 月で設立 20 周年を迎えました。設立当時のご苦労された諸先輩に心から感謝申しあげ、さらに、会員・学生の皆様と一緒になって同窓会の発展を図ってまいります。

さて、放送大学は、これまでの大学とは違い、卒業をしても多くの方が再入学され、さらに学習を続けていくというこれまでにない大学のスタイルをもった、日本国内でも珍しい大学であります。最近では、他の大学も社会人入学を受け入れるようになってきて、大学というものが、学歴を取得するためだけの存在ではなくなってきていることを示しているような気がいたします。

放送大学のこのような特性をさらに進展させるためには、同窓会の役割が益々重要になってきます。具体的には、これまで諸先輩方が培ってきた卒業生のネットワークと、新入学・再入学で現役学生となっている方々とを融合させることができれば、新たな道が開け、同窓会活動のさらなる活性化へ繋げることができると思っております。卒業生だけの同窓会ではなく、卒業生も現役学生も含めた、放送大学に所縁のある方すべての方々のための同窓会でありたいと願っております。

新しい時代にマッチした同窓会活動を求めて、令和 3 年 2 月 14 日（日）リモート（オンライン）で講演会と論文発表会を開催。初めての試みでしたが、ウイズコロナを見据えたリモート開催は大成功。支援活動効果として①県内の地域間情報格差の縮小。とくに長崎県は離島（五島、壱岐、対馬）も多く、リモートでの参加は学習意欲の向上も期待できる。②新たな参加者が見込まれ同窓会活動を訴求することができる。このように同窓会は、講演会や論文発表会をとおして在学生支援活動、生涯学習教育支援を行っております。

ウイズコロナを見据え、同窓会活動も新しい通信技術を活用したリモート形式が求められています。一方、顔と顔をつきあわせた対面形式での活動も重要です。両者のバランスをはかりながら若い世代を掘り起こし同窓会活動の活発化を図ってまいります。

最後になりましたが、大変多忙のなか、同窓会会報誌「琴の海」の発行やさまざまな行事などでご尽力をいただいている役員の皆様のご活躍に心から感謝するとともに、会員や学生の皆様のより一層のお力添えを賜りますよう重ねてお願い申しあげます。

長崎学習センター所長 あいさつ

無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）を知ろう、気づこう、対処しよう

長崎学習センター所長　　伊東昌子

最近よく耳にする「無意識の偏見」について、詳しい内容をよく知らない学生さんもいると思いますので、ここで改めてお話をいたします。

無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス＝アンコン）とは、大量の情報から瞬時にパターンを見つけだし素早く行動を起こす、無意識に起こる知的連想プロセスの一つで、私たちの生命維持や生活において重要な機能です。誰にでもアンコンがありますが、問題は無意識の関連づけがネガティブに働くことにあります。

東京五輪・パラリンピック組織委員会　前会長の森喜朗氏の「女性は話が長い、女性はみんな発言したがる」や、「組織委にも女性は７人おられるが、みんなわきまえておられる」の発言と、この発言に「NO!」といえなかった委員会の反応の一連の出来事は、性別に関するアンコンであり、集団同調性バイアス（集団に所属することで、同調・圧力が強まり周囲に合わせてしまう）、正常性バイアス（危機的状況になっても、自分にとって都合の悪い情報を無視、過小評価する）が働いていたと思います。これらはすべてアンコンですが、ほんの一例です。無意識の発言や行動に対して、国内からも世界中からも抗議の声が上がって、どのような展開になるのか興味津々で報道を見ていました。自分の中にあるアンコンに気づくことから、日本人は学んでいかなければならないと痛感しました。

アンコンは何気ない日々の行動や言動となって現れます。相手の心を傷つけ、違和感や疎外感を生み、モチベーション低下など個人への影響にとどまらず、職場の人間関係やパフォーマンスにも影響するなど組織全体にも波及します。

アンコンに気づくためには自分を客観的に見る能力「メタ認知」が重要と言われています。偏見排除の責任は一人ひとりが負うべきで、例えば自分の第一印象を疑い、少し時間をおくことで無意識を意識化することができます。また、自らの意思決定の根拠を説明できるようにしておけば、アンコンが入り込む余地が小さくなります。そして、フィードバックを求めることで、互いのアンコンを阻止できます。

今日から「これって私のアンコンシャス・バイアス？」と意識を向けてみませんか？

令和２年度活動紹介

リモートでの講演会・論文発表会の開催
～ウイズコロナを見据えたリモート開催は大盛会～

副会長　和田貞雄

長崎同窓会では、毎年講演会（10 月）と論文発表会（2 月）を対面で実施してきました。しかし、令和 2 年度は、コロナの感染拡大で 10 月開催予定の講演会は 2 月に延期。論文発表会と同日に開催することになりました。

令和 3 年 2 月 14 日（日）開催の講演会（第 1 部）と論文発表会（第 2 部）の準備としてポスター（兼チラシ）を作成。同窓会のホームページにも掲載。対面形式での開催をメインに、場合によってはリモート開催もある旨の文言を挿入。ただしコロナ禍、参加者は 30 名に限定しての案内でした。

開催 1 ヶ月前に学習センターと開催方法にについて協議。対面での開催はコロナの感染拡大で無理となり、残る選択肢は「リモート開催」か又は「中止」かになりました。そこで勇気づけられたのが同窓会連合会からのメール（2020 年 12 月 4 日付）で「同窓会はＺｏｏｍの「有料版」（学習センター）を無料で利用できる」旨の文言でした。即、リモート開催をお願いしました。但し、リモート開催をする場合は、Ｚｏｏｍの運営についてはすべて同窓会で担当することになりました。リモート開催に向けてスケジュール表の作成、担当者の割り振り、職員さんからＺｏｏｍの研修受講、招待状の送付、リモート初参加者の研修、論文発表者（2 名）の打ち合わせ、資料の郵送、前日リハーサル等大忙しの事前準備でした。

開催当日は、スムーズな運営で予定どおり進行し、対面での開催以上に質問もあり、リモート開催は大盛会のうちに終了。今回初めてのリモート開催での支援活動効果として①県内の地域間の情報格差の縮小。とくに長崎県は離島（五島、壱岐、対馬）も多く、リモートでの参加は学習意欲の向上も期待できる。②新たな利用者が参加することで同窓会活動を訴求することができる。一方、苦戦したのは、対面に比べて事前準備に時間がかかり同窓会役員の負担が大きくなった。ただし、経験を重ねることでノウハウが蓄積され負担軽減が期待できる。このように同窓会は、講演会や論文発表会の開催を通して在学生支援活動、生涯学習教育支援を行っております。

ウイズコロナを見据え同窓会活動も新しい通信手段を活用したリモート運営が求められつつある様です。また一方、顔と顔をつきあわせたぬくもりのある対面形式での活動も重要です。両者のバランスをはかりながら若い世代を掘り起こしつつ同窓会活動の活発化を図ってまいります。

アンケート集計結果の分析

Ｑ１　Zoom は初めての経験ですか（25 名の回答）

・はい　20%　　・いいえ　80%

Ｑ２　どうやって講演会・論文発表会の情報を知りましたか（25 名の回答）

・チラシ　12 名（48%）　・ホームページ 9 名（36%）　・友人からの紹介 2 名（8%）

Ｑ３　今回の講演会（山本太郎先生）について、あてはまるものを選択してください

・非常に良かった　79.2%　・良かった　12.5%　・普通 8.3%　　（24 名の回答）

Ｑ４　講演会（山本太郎先生）に参加した理由（23 名の回答）

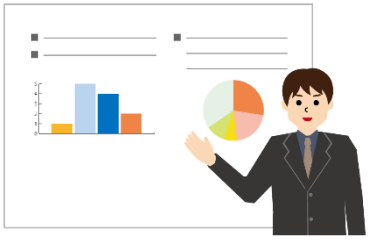
・なぜスペイン風邪の流行から 100 年後のこの時期にパンデミックが発生したのか知りたかったのと、今後人間世界がどのような方向に向かうのかのヒントを得たいと思いました。

・過去・現在でのコロナ情報やアフターコロナの社会未来予想等について、是非山本先生のご講演を拝聴させていただきたく参加しました。

・コロナウイルスに関心があって受講したかった（専門家の話を聞きたかった）

Ｑ５　今回の論文発表会について、あてはまるものを選択してください（20 名の回答）

・非常に良かった　60%　・良かった 30%　・普通　10%



Ｑ６　論文発表会に参加した理由（21 名の回答）

・今後の卒業研究にいかしたい

・論文を聴いておいた方がいいかなと

・発表内容に興味があったから

・量子力学の理解が深まりよかったです

Ｑ７　今後、どのような講演会を催してほしいですか（20 名の回答）

・環境問題、とくに気候危機や生態系の変化などについて、持続可能な地球のあり方

・長崎は江戸時代から異国に開かれた長く特異の歴史を持っていると思いますので、それに関連した歴史的な講演会を希望します

・高齢者自身の生活に役立つ内容を希望します

Ｑ８　長崎同窓会にご要望がありましたらご記入ください

・今回のような講演会の機会をもっと増やしてほしい

・山本先生のお話、とても大きな学びを得ることが出来ました。小生、臨床心理士を目差し、現在修士科目生で心理学を学んであります。コロナが落ち着きましたら何かお手伝いできることがありましたら、事務局の皆様とお会いしたいです。

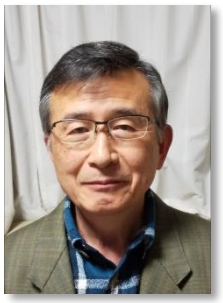
Ｑ９　年齢　（25 名の回答）

・70 歳代　48%　・60 歳代　16%　・50 歳代　16%　・80 歳以上　12%

Ｑ１０　性別　（25 名の回答）

・男性　56%　・女性 44%

以 上



講演会「コロナの時代 私たちは何を考えるか」

講師・長崎大学熱帯医学研究所　　山本太郎教授

副会長　原口俊彦

まず、この講演はまさに時宜を得たものであり、私を含め皆さんが「これはぜひ受講したい、知りたい」と関心を持たれたことと思います。しかも講師は感染症・熱帯医学研究で高名な山本太郎教授！ぜひ受講したいと思うところです。

本当は、「通信大学生」だからこそ、ぜひ生で対面講演を受けたかったのですが、如何せん、まさに「コロナの時代」のど真ん中でありオンライン講演となりました。

しかし遠方･他県の方も受講できるというメリットがあり実際に遠方から参加された方も多く､結果的には大成功だったのではないでしょうか。コロナ禍が落ち着いた暁には、生講演とオンライン講演を同時併行し、全国から参加できると､災い転じて福となす､いい検討課題ではないでしょうか。

講演の内容については右の囲みに主な概要をまとめております。山本教授は Zoom での授業や講演に慣れていらっしゃって、PowerPoint を駆使された資料を基に理解しやすく話されました。また、各地の過酷な現場で、エボラ出血熱やコレラ､ハイチ地震や東日本大震災等々の中に身を置かれた経験から、淡々とさりげなく説明される内容にも、圧倒的な説得力を感じました｡ハイチのコレラ治療の現場の解説では､まさに自分が感染者や医療者の苦悩や汚物臭の中にいるような感覚を覚えました。

今回の講演で私が得たものは、感染症の知識はもとより、感染症の移動・流行は大きな社会変化、社会構造の変革をもたらす原動力となるという物の見方でした｡それと多数の微生物と共生しないと生存できない｢私｣とは､どこまでが｢私｣か、という生命・生物の造形の不思議でした。

「われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか」（ポール・ゴーギャン）

「お話しされた内容」

1. 国際保健学の研究・教育・社会貢献
2. コロナウイルスの脂質二重膜はアルコール消毒で破壊できる
3. 新型コロナウイルスは変異しやすく、理論上年に約 30 個の突然変異が起こる。しかし、増殖の速度の速さ・感染力と病性は相反することが多い。
4. ウィルス生存のためには宿主の存在が絶対的に必要（殺してしまうと自分が生存できない）。感染しても発病するウィルスは 0.001%程度。
5. ヒト身体には1000種類100兆固2Kgの微生物が常在していて、一緒に生きている。（では「自分」とは何か？）
6. 小規模集団では急性感染症は維持できない。少なくとも数十万人は必要。
7. 農耕以降、人口増加と野生動物の家畜化が進み動物からヒトへの感染症が定着した。
8. 感染症は社会変化の一因となる。ヨーロッパ人が持ち込んだ感染症で新大陸の先住民は 1/10 に減少し征服された。中世ヨーロッパのペスト流行は社会や思想の枠組みが解体し、近代の始まりとなった。新型コロナについても、生活・仕事の仕方の既成概念を変革させることとなるだろう。（情報技術(IT)の活用など）
9. 新型コロナはもはや根絶することはできない。ワクチンによる集団免疫の獲得が社会・個人の利益にかなう。

卒業論文「電弱相互作用と中性カレントの研究」
―超新星爆発と素粒子ニュートリノ―

自然環境科学プログラム　茶谷好晴

昨年２０２０年、放送大学で自然環境科学プログラム（理論物理学）の修士課程を終え、「電弱相互作用と中性カレントの研究」という主題の下に修士号を頂くことが出来ました。

私は、昭和２４年ごろ、湯川秀樹博士がノーベル物理学賞を受賞され、日本中が沸き立っていた頃、たまたま、長崎市にある浜の町のアーケードを歩いていたとき、通りのラジオから、今、ヨーロッパでは量子力学という学問が、若者たちの間で、人気があり、研究されている、という放送が流れてまいりました。それを聞きながら、量子力学とはなんであろうと、思いをはせました。

当時、私は海星中学校の２年生で、その頃、まだ県立高等学校の、東校も西校も存在していない頃でした。巷には、まだ小学生であった、美空ひばりの「りんごの唄」が元気よく流れたりしておりました。

程なく、私は、海星高等学校を卒業し、九州大学に入学し、応用化学を専攻して、化学工学者として、世界で化学プラントを建設して回ったのですが、いつの日か、量子力学を中心とする、理論物理学を専攻してみたいという熱い願いを持っておりました。

ところが、放送大学では、教養学部に在学していても、大学院に正式に入学して、修士号を取得してもよろしいということをお聞きし、さっそく、母校より書類を取り寄せ、応募したところ、入学してよろしいという許可を頂き、８０歳を超えておりましたけど、３年間、理論物理学の素粒子論を専攻することが出来ました。

論文の表題にも述べました、指導教官、松井哲男教授は、２０１９年の４月ごろに、長崎学習センターでも、「核物理の初歩と今日の核問題」と題して、原子爆弾の面接授業を行なわれたこともあり、長年、アメリカの MIT(マサチュセッツ工科大学)で教授をされてきた方でもあります。

素粒子のニュートリノを研究したいという私の意向に対して、提示して頂いた論文が S.Weinberg の論文、Phys.Rev.Letters,19(21),1264(1967)です。この論文を翻訳、研究しながら、１学期、２学期が修了した頃、松井先生から「ニュートリノは低エネルギーでこそは、反応性に乏しく、弱々しい素粒子でしかないが、天文学的には全然異なった行動を示し、現天文学の領域では、このニュートリノこそは、恒星の超新星爆発を引き起こしている物理学的要因を形成している中心的素粒子としている。私の友人で、Daniel.Z.Freedman　教授が素晴らしい論文を書いているからこれを研究するように」いって手渡されたのが、「Ann.Rev.Nucl.Sci.（1977）27、167-209」の論文であります。

この論文を読みながら宇宙物理学に対する私の眼が豁然と開かれる思いが致しました。この論文によりますと、恒星の超新星爆発のエネルギーは大略 10^{53}エルグであるのに対し、広島に落下した原子爆弾のエネルギーは大略 6.28×10^{20}エルグであるといわれますから、その倍率たるや、約 1.6×10^{32}ということであります。

元茨城学習センター所長の横沢正芳先生の特別講義によりますと、1 日 5 回はガンマー線・バーストという形で、全宇宙で、超新星爆発が発生していることになり、我々は如何に恐るべき宇宙に住んでいるかということになります。

ところが、最近の天文学、及び、宇宙物理学の発展による、宇宙マイクロ波背景放射などの研究により、このように素粒子物理学によって解明されつつある物質構造は宇宙全体の物質エネルギーの４％ぐらいでしかなく、後の９６％は暗黒物質（２２％）、や暗黒エネルギー（７４％）ではないかといわれ、今後の研究が待たれております。ただ、これらの物質エネルギーは、解明されたこの４％の物質エネルギーの構造を土台として、解明されていくということであります。

卒業研究「産学連携の促進要因に関する一考察」
―大学と企業との研究開発はどうあるべきか―

長崎学習センター特別表彰を受賞して

社会と産業コース　土橋晋作

このたび卒業研究（社会と産業）に挑戦し、合格しました。ご指導を賜りました長崎大学経済学部の西村宣彦教授、インタビュー調査にご協力頂いた長崎大学大学院工学研究科の３名の教授のみなさま、そして本卒業研究を応援してくださった放送大学長崎学習センター所長（長崎大学副学長）伊東昌子教授に厚く御礼申し上げます。

また、「2020 年度長崎学習センター特別表彰」の栄誉に浴し、身に余る光栄に存じます。これを励みとし、自分自身の学びを深めてまいりたく思っております。

思えば 2008 年の話になりますが、私は「産学連携（企業と大学との連携）の研究開発」について MOT（Management of Technology：技術経営）の観点から探求していきたいと考えていました。しかしながら、当時 MOT を学べる場所は、関東地方の大学院に限られていました。このような状況の中、放送大学科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）に「ものづくりと MOT（技術経営）を学ぶ」があることを知りました。

放送大学の授業科目は更新頻度が高く、最新の学問分野がとても早い時期に導入されており、テキストの内容もしっかりした（わかりやすい）ものとなっています。そのため MOT のような新しい学問分野の授業科目も既に整備されていました。選科履修生として勉強を開始し、2012 年 02 月に「ものづくりと MOT（技術経営）を学ぶ」の履修認証を得ました。

その後、放送大学長崎学習センターから「毎年学習しているのであれば、選科履修生よりも全科履修生として在籍するのも良いのではないか」との助言を頂き、2013 年度から全科履修生として在籍しました。興味ある科目を履修し続けた結果、選科履修生時代から数えて 10 年以上の在籍期間となり、卒業が見込めるほど取得単位が揃ってきました。そうした中、教養学部の授業科目に「卒業研究（社会と産業）」があることに気づきました。これまで MOT を中心として社会科学を学んできましたが、「産学連携の研究開発」について大学教授からご意見を伺いたく思っていました。

伊東先生に相談し、西村先生を紹介いただき、2020 年度から卒業研究に着手しました。作業仮説

を明確にし、長崎大学大学院工学研究科の３名の教授にインタビューを実施しました。

大学と企業との研究開発はどうあるべきかについて先生方から多くの御教示を賜り、産学連携の促進に資する施策を立案できました。設定した作業仮説の４割が棄却されたことから、机上検討だけでは限界があることを痛感しました。また同時に、フィールド調査の重要性を認識でき、とても良い勉強になりました。

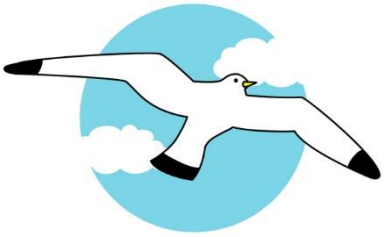
提出した論文は、放送大学本部より 2020 年度卒業研究優秀報告書として選出されました。（システム WAKABA の「資料室」に掲載されます）。継続入学し、引き続き放送大学にて生涯学習をいたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

二次離島の高齢者に寄り添って

2020 年度生活健康科学プログラム修了生　　黒須 久美子

私は 20 歳代、30 歳代の頃は看護師、助産師の資格を生かして海外で仕事をし、その後も夫の赴任とで約 12 年間を海外で過ごしました。2016 年に夫の定年退職、再就職を機に、五島列島にある久賀島に移住を致しました。久賀島はその集落が世界遺産「潜伏キリシタン関連遺産」の構成遺産に含まれる、自然豊かなとても美しい島です。しかし、人口減少が激しく、高齢過疎が深刻な島です。現在の人口は 300 人で、過去 60 年間で 92％の減少率となっています。

私が大学院への進学を決めた 2018 年末に島で唯一の商店が閉店となりました。このままでは買い物難民ができてしまうと危機を感じ、一大決心をして、私自身が移動販売も行う小さな商店を始めました。私の労働は半ばボランティアですが、毎日数十人が利用する高齢者たちの生活を支える場となりました。お店を始めてしばらくすると、いつもいらっしゃる高齢者が買い物に来ないと心配になり、遠方の高齢者の安否が気になるようになりました。この小さな心配が、私の修士論文のテーマとなりました。島に根付いている互助機能と、情報共有の為のタブレット端末とを利用した新しい「高齢者の見守りシステム」を考案しました。郵便局や診療所、町役場、郵便配達員、フェリーの乗組員など高齢者と普段接触がある機関や人々の協力を得て、タブレット端末で特定の高齢者の「お元気情報の共有」するというものです。五島市のふるさと納税型クラウドファンディングにて、１５台のタブレット端末の購入費や通信費など研究費を賄いました。2 度の実証実験の結果を修士論文としてまとめました。この新たな見守りシステムが、島の人たちの安心に繋がるという結果を得ることができ、今後は島の取り組みとして実用化されることとなりました。（この私の活動はテレビ長崎のドキュメンタリー番組にもなりました。）



父の介護とお店の運営をしながら修士論文をまとめるのは大変でしたが、非常に充実した２年間でした。今後も、修士選科生として在籍し、島の見守りシステムについての研究を継続していく所存でおります。将来、私のような学生の為に、放送大学にも研究生制度ができることを望んでいます。

令和３年度総会資料

第1号議案　令和２年度　放送大学長崎同窓会活動報告

月　日	活 動 内 容	参加人員	概　　要
4月1日	新型コロナウィルス感染防止対策で非常事態発令 5/6迄行事中止・学校閉鎖		
4月5日	学位記授与式、入学式中止		
5月23日	第23回同窓会連合会定時総会中止		・書面総会開催
6月2日	感染防止対策で一部解除 学習センター利用は5名迄利用可能		
6月12日	第１回役員会及び平成31年度総会開催	10名	・長崎新聞社文化ホール小会議室にて開催
6月19日	第2回役員会	5名	・会報「琴の海」20号編集会議 ・240部印刷発注
6月26日	第3回役員会	5名	・会報「琴の海」20号　同窓会員へ発送(137部)
7月1日	第4回役員会	5名	・講演会準備　・「HP」リニュアル打合せ
8月5日	第5回役員会（三役会議）	3名	・講演会ポスター作成・案内状作成&発送準備
9月2日	第6回役員会（三役会議）	3名	・令和2年10月10日開催予定「講演会」延期決定
9月27日	学位記授与式 入学式	1名	・「学位記授与式」規模を縮小し実施。会長祝辞
10月7日	第7回役員会（60分）	8名	・新卒業生へ同窓会勧誘便発送(26人) ・講演会・公開講座の日程等打合せ(2/14決定)
11月4日	第8回役員会	8名	・講演会・論文発表会打合せ ・「琴の海」第1回編集会議
11月19日	れきぶんツアー	10名	・学生研修旅行「れきぶんツアー」に変更
12月2日	第9回役員会	9名	役員会は60分限定で許可。講演会・論文発表打合せ ・会報誌「琴の海」第2回編集会議
1月6日	第10回役員会（三役会議）	3名	・講演会・論文発表会打合せ（学習センターと開催方法について協議）
1月22日	第11回役員会	8名	・講演会・論文発表会打合せ リモートにて開催：Zoom 運営は同窓会担当
2月予定	「第9回　放送大学九州・沖縄地区交流会in沖縄」次年度に延期		
2月3日	第12回役員会	9名	・講演会・卒業研究発表会打合せ ・会報誌「琴の海」第３回編集会議
2月14日	講演会・卒業論文発表会 （リモート開催）	57名	・講演「コロナの時代 私たちは何を考えるか」 講師:山本太郎教授 ・卒業論文発表者（茶谷氏・土橋氏）
3月3日	第13回役員会	8名	・会報誌「琴の海」第4回編集会議・卒入学式準備・次期総会資料作成及び案内状送付準備
3月31日	第14回役員会	10名	・会計監査 ・卒入学式準備(同窓会入会を含む) ・次期総会資料・案内状準備
年間通して「長崎同総会ホームページ」リニューアル作業			

第4号議案　令和３年度　放送大学　長崎同窓会活動計画

卒業生も、現役学生も含めた放送大学に所縁あるすべての方々が、同窓会活動を通じて、楽しく活き活きと交流し、生涯学習で自己研鑽に励み、社会的貢献などを基本とし、多様で個性的な生き方を尊重し、明日の希望に満ちた人生を謳歌するため、共に同窓会活動に取り組むことを目指しましょう。

１、［連携の強化］次の行事に参加しよう
　★　学位記の授与・入学式、懇談会出席　★サークル活動への参加
　★　ゼミへの参加　★　客員教授による面接授業・公開講座に参加
２、［琴の海］を発行し、会員の意見を反映させよう。
３、［講演会］、［論文研究発表会］の開催を同窓会の主要事業と位置付け、会員の取り組む姿勢を高揚させよう。
４、［会員増加］積極的な活動により、魅力的な同窓会を目指し、入会する会員を増やそう。
５、［放送大学同窓会連合会］、［九州地区同窓会］との交流を進めよう。

令和３年度活動計画

月	活動計画概要
4	■　学位記授与・入学式・懇談会　■　令和3年度・総会　■　役員会
5	■役員会　■　放送大学同窓会連合会「第２４回総会」出席
6	■役員会　■「HP・長崎同窓会」編集会議　講演会打合せ
7	■　単位認定試験
8	■　役員会
9	■　役員会　∴講演会準備　∴前期の反省・後期の活動の確認
10	■　学位記授与・入学式　■　講演会
11	■　役員会　■　長崎学習センター研修会への参加
12	■　会報「琴の海２2号」編集会議　■　論文研究発表会準備
1	■　単位認定試験
2	■　役員会　■　論文研究発表会　■　九州ブロック大会出席
3	■　役員会　令和4年度総会準備　■　会報「琴の海・２2号」編集会議

「新会員の紹介」　ご卒業おめでとうございます。

■　令和２年度前期卒業

宮 﨑　信 千 代　さ　ま　　築 城　峯 子　さ　ま

お　た　よ　り

※氏名五十音順。編集の都合上一部原文を割愛させていただいております。

磯木　律子：母の介護の為、長崎方面、県外には出掛けられません。(コロナ感染予防のため)手芸や読書をして過ごしています。早く長崎市内へ行きたいと思っています。

市成　譲二：コロナ禍、健康ウォーキングもマスク使用しております。21 万歩/月ですが、４月以降＋α目指しております。卒業以降も経済の学びは専門の理系と併行して続けております。ウーキングで 20 代の体形を維持し乍ら、県内中小企業の支援の準備を行っております。

稲田　耕一：放送大学長崎同窓会役員の方々の諸活動に深謝いたします。新型コロナのために NHK ホールでの卒業式が取りやめとなったのは残念でした。放送大学には合計 8 年間お世話になりました。現在は町内自治会の副会長と週 3 回のボランティア（環境省 NPO）で活動しています。今年で 74 歳になります。幸いにもコロナワクチン接種ができそうなので、その分元気に社会貢献をしていきたいと思います。

岩崎　信子：三密を避けて、マスクを着けて近くで花見を楽しんでおります。

岩永　秀章：総会の御盛会を祈念します。グランドゴルフや家庭菜園等を楽しみ元気に過ごしています。

大坪　藤代：かつて同窓会で開講したパソコンサークルに現在も所属しています。’２０年度はコロナ禍により教室に集うことなく、午前中・小グループ、午後・個別での Zoom による受講と最新の授業形態を体験させてもらっている。落第の連続でも受け入れていただき、学生の身分？を満喫している今日この頃である。感謝！感謝！

柿山　春美：大好きな旅行が出来ずに、残念な日々を過ごしています。年を重ねるたびに視力の低下が進み（老眼)、本を読むことがなくなりました。あのころは、教科書をみることも楽しみでした・・・・。花や野菜を育てて、家業の牛飼いをほんのすこし手伝っています。

片岡　慶子：60 歳の定年まであと 1 年となりました。その後も再任用で働く予定です。家事と仕事の両立はこれからも続きます。コロナ禍で旅行に行けなくて残念です。総会は申し訳ありませんが、欠席します。皆様のご健勝をお祈り致します。

香月やゑ子：家庭の都合により欠席します。日常生活は自粛を心掛けながら出来る範囲で過ごしております。同窓会のために、いつも御尽力いただき有がとうございます。

久保　一雄：いつも情報誌をお送りいただき、ありがとうございます。同窓会に出席したい気持ちはあるのですが、つい足が遠のいてしまって、一歩が踏み出せません。ご盛会をお祈りしています。

古瀬恵美子：こんにちは、一昨年３０年勤務した職場を退職しました。退職後は旅行に行ったり、ゆっ

くり楽しみたいと思っていましたがコロナ禍で何処も出かけることが出来ません。皆さんも大変な思いをされていることでしょう。お互いに頑張りましょう‼

小松　万樹：平素より大変お世話になっております。残念ながら都合がつかず参加出来ません。
　近況ですが、体調不良のため休み休み受講している状況です。体調が回復して皆様にお会いできることを楽しみにしております。
　また会報誌ですが、もし可能でしたら紙資源の節約と紙代、郵送代等の節約、同窓会をより長く持続可能にするためにパソコンのメールアドレスに PDF 等の形式で送っていただければと考えております。お手数おかけしますがどうぞ宜しくお願い致します。

坂田　眞澄：マックで番組表を見ることができました。パソコンでは、入学しないと視聴することはできませんか。できれば 1 科目からでも単位を取得できるように勉強したいと思っております。

佐藤　一誠：現在 心臓病術后のリハビリに専念中です。コロナの終末もはっきりしない折、自分だけのクラスター感染予防に気を配って生活しております。80 歳と年令を重ねての一人身の生活で人との交流も皆無の状態です。マイペースでクラスター感染しない様に気をつけています。

汐除　時也：役員のみなさま同窓会のお世話ご苦労様です。コロナ禍も第 4 波が近づいています。新しい感覚でご活動ください。追伸　学習センター在職中はお世話になりました。在学生兼同窓生という珍しい活動を間近で拝見できました。ありがとうございました。

篠崎　七重：お知らせ、ありがとうございます。当日は、今、学んでいるものの勉強会があり、参加できなくて残念です。現在は、リアルで学んでいたものを Zoom での参加に切り替えての学びの途中です。世界中が新しい生き方を模索している時だと感じています。未来へとつながる総会となりますように。

田川　明美：いつもお世話様でございます。コロナ禍については、当初は変異株のことなど思いもおよばず、ワクチンを打てる日を待つのみでしたが、今やどういう局面を迎えることになるか簡単には想像できない事態です。長引けば長引くほど、何かしら世界観が変わったというか、思い知らされたというか、その感覚で暮らす毎日です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

飛永まさみ：ご連絡ありがとうございました。コロナ騒動の中、私は皮肉にも最も安全な病院に入院し外界と隔絶された生活を経験しました。そんな中、私の 2 冊目の本が完成しました。文芸社「行って見て聴いたことを…伝えたい」水島瞳著、というノンフィクション集です。3/15 出版、全国の紀伊国屋書店とアマゾン等 net で取り扱い中、又は私の所、よろしかったらどうぞ…。net にも、水島瞳（ペンネーム）の新刊などで出ております。

中尾　博　：コロナでの自粛生活が続いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？
皆さんリモートでの学習なのでしょうか。小生は、相変わらず事務所業務と土日の農作業に　精を出しております。コロナが収束し一日でも早く元の日常に戻ることを願うばかりです。皆さんによろしくお伝えください。

中野　久子：いつもご連絡ありがとうございます。

長友アヤ子：何度も連絡いただきましてありがとうございます。今回も欠席で申し訳ございません。皆様へよろしくお伝えくださいませ。コロナ禍、一日も早く終息致しますこと、心より願っております。時節柄　御自愛の程　祈念申し上げます。

橋本　純子：お世話になっています。いつもご連絡ありがとうございます。よる年なみもありますがコロナ禍で遠出ができず、居場所をみつけることが難しい状況です。体力維持のための運動も、体重増加が上回り、大変疲れ、悪循環になっています。動かず食べてばかりです。コロナ禍の過ごし方は私も大変興味深いことで教えを乞いたいところです。

平川　厚子：世界中がコロナに脅かされる中、長崎県の発生数は、比較的少なく、統計発表を確認しては胸を撫で下ろしています。そういう中で、自身が「貰わず・あげず」ご迷惑をおかけしないよう気を付ける毎日ですが、心の片隅では、一日も速く自由な日が来て欲しいと呟いています。

平田　満穂：コロナに対しては「手洗い」と「うがい」が効果ありと思っています。

増田　由美：このたびは、ご連絡をいただき有難うございました。役員の皆様には大変お世話をお掛けしております。ステイホームの期間を断捨離のチャンスだと思い、数回試みましたが、未だに片付いていません。思考をシンプルにするのが先みたいです。

松田　容子：御案内ありがとうございます。コロナ禍の中、何となくすっきりしない、毎日を過ごしております。仕事もキャンセルや変更と、落ち着きません。体力と気力が残っている間に終了した以外のコースにチャレンジしたいと思っております。総会の御盛会をお祈り致します。

村里　保亮：(近況) 資格試験に向けて学習中。 (コロナ禍の過ごし方) 自宅の換気に気をつけている、買い物や運動等以外での外出を控えマスク着用を徹底している。

山口　栄子：夫婦で農業を行い、収穫した色々な野菜を毎日出店しています。

山本　妙子：お世話様です。人生 楽しみましょう。

吉田　和正：放送大学は主に福祉や心理学関係の科目をとって毎週１～2 回学習センターへ行って勉強を続けています。これからも ずっと 学び続けたいと思います。

吉田　省三：いつもご案内をいただきながら欠席ばかりで申し訳ありません。今のところコロナの影響も受けず何とか生活をしています。今後もどうかよろしくお願いします。

訃　　報

謹んでお悔やみ申し上げます。心よりご冥福をお祈りいたします。

内田　伯さま：令和 2 年 4 月にご逝去されました。

高柳庸雄さま：令和 2 年 10 月にご逝去されました。

米田栄治さま：「米田栄治さんの想い出」　峰　昭子

令和 2 年 11 月 13 日、米田栄治さんがご逝去されました。真摯で前向きな米田さんは学業に勤しむ傍ら「学友会」、「写真クラブ」で活動され、「パソコンサークル」においては「級長さん」としてみなさんに親しまれました。サークルの取組み HP 作成では、「英ちゃんの徒然日記」を立ち上げられ、HP のなか、英ちゃんの一言では「ジョン・F・ケネディの『あらゆる危険の中で最も大きい危険とは何もしないということだ』」を残されています。「英ちゃんの徒然日記」は、令和 2 年 10 月 24 日まで更新されていました。まだまだお元気でリモートゼミ、講演会などにも取り組まれて欲しかったと残念な思いです。心からご冥福をお祈りいたします。

設 立 準 備 中

健康学習サークル

「人生 100 年時代に向けて」

■　健康について専門家による正しい知識を学ぶ。

健康に過ごすため日々の暮らしと食生活（薬膳料理など）

■　真向法体操　心身とも健康に過ごすための実技。

真向法体操は放送大学「体育実技」単位取得科目です

＊　コロナ禍のなかでも活動できるように、

「Zoom」の知識を学び、簡単なパソコン操作に慣れていただきます。

■　活動日　毎月　第１水曜日　13:30～15:30

■　場　所　放送大学長崎学習センター　4F

■　サークル入会の対象者

放送大学長崎学習センター学生。長崎同窓会会員。

■　年会費

千円（入会時にお支払いください）

会　員　募　集　中

サークルについての詳細・お申込みにつきましては
「健康学習サークル」　担当者　峰　昭子　までお願いします。
Mailaddress：　kiraria.2021@gmail.com

公開講座特別企画「解説付れきぶんツアー」に参加しました。

令和２年１１月１９日、長崎歴史文化博物館にて、当館設立の経緯・運営の説明をしていただいた後、特集展示（金唐革）・常設展・収蔵品（黄檗展）を丁寧な解説付きで見学しました。

仔牛などの皮をなめして、箔を貼り、模様をプレスし、手彩色して仕上げられた装飾革で、ヨーロッパでは主に室内の壁面装飾、日本では煙草入れなど小物の素材とされた。その見事な品々は歴博が収蔵する「金唐革の世界」だった。

常設展・黄檗展

南蛮貿易とキリスト教

朝鮮通信使と対馬

交流が生んだ異国趣味

当時の長崎はフムフム･･･

黄檗宗の僧の肖像画と書

龍馬像と日本の夜明けを…

編集後記

コロナ禍で様々な活動が制約される中、ゼミや面接授業の Zoom 受講、そして講演会・論文発表会の Zoom 開催と、否応なくではあったが、新しいことの習得と実践となったことは、山本教授が講演会で言われた「感染症が社会変革のさきがけとなる」プラスの一例ではないでしょうか。…とはいえ早く先生方や学友と生で御一緒したいですね。

編集委員一同

■ 平成 27（2015）年に、**HP** を開設しました。
https://hngc-dosokai.jimdo.com/　放送大学長崎同窓会　検索

長崎同窓会会報誌　『琴の海・第２１号』　令和３年５月１５日　発行
発　行　者　放送大学長崎同窓会
発行責任者　高　潮　昇
編集委員　田浦 幸勝　中嶋 幾美　和田 貞雄　佐藤まゆみ　石丸 栄子
林　愛華　田中 富子　峰　昭子　原口　俊彦